

# 2018年度上半期報告 説明資料

相互会社としての使命	..... P1	基礎利益の状況(2社合算)	..... P9
経営の差別化の歴史	..... P2 ~ P3	健全性の状況	..... P10
2018年度上半期報告のポイント	..... P4	オンバランスの自己資本強化と継続的なリスク・コントロール	..... P11
保険業績の状況(2社合算)	..... P5 ~ P6	100周年に向けて	..... P12
保険料等収入の状況(2社合算)	..... P7	(ご参考)主要業績	..... P13 ~ P16
資産運用の状況(富国生命単体)	..... P8		

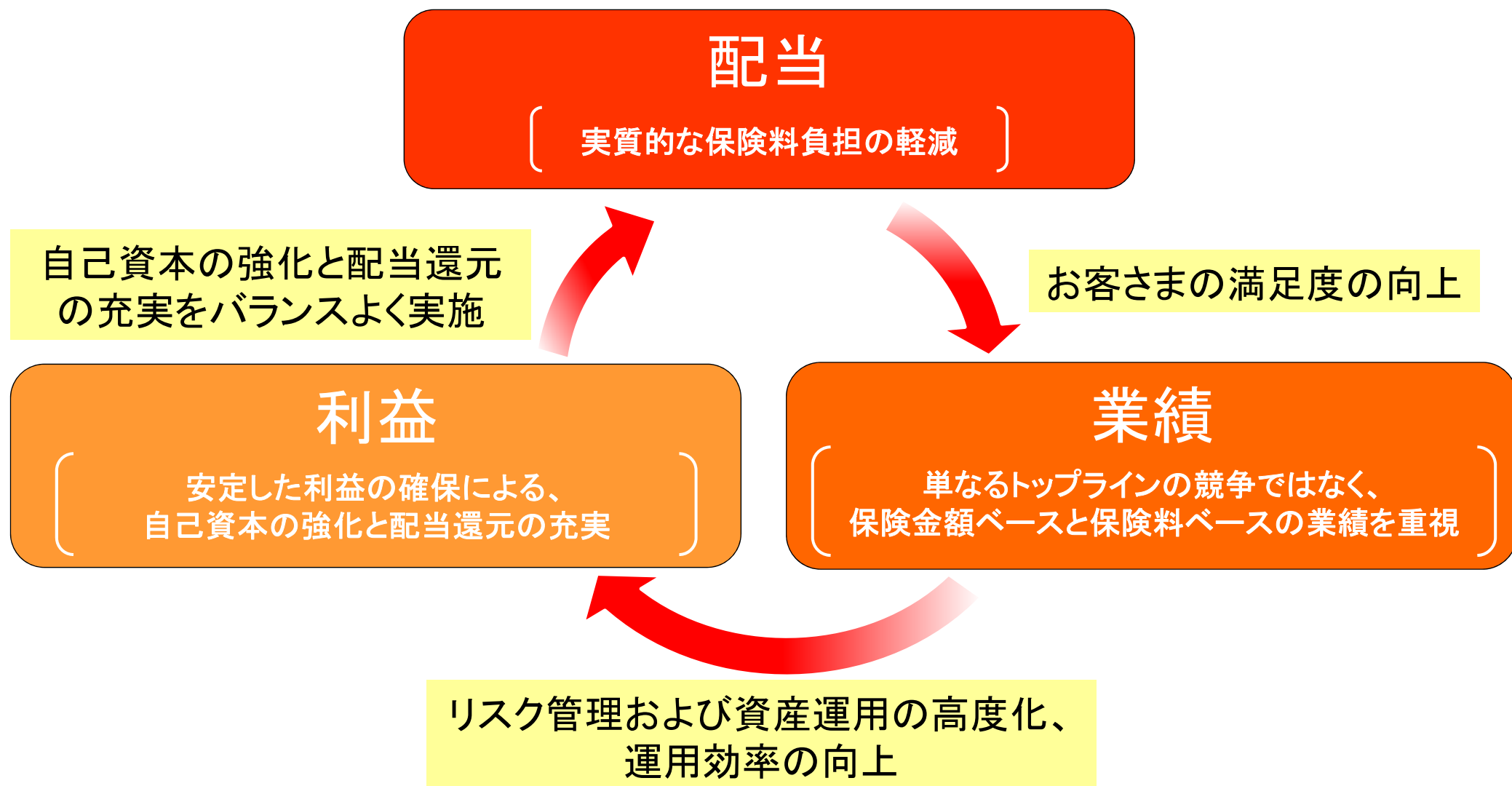
2018年11月22日

富国生命保険相互会社

すてきな未来応援します

**フコク生命**

# 相互会社としての使命



安定した利益を確保し、配当還元の充実を通じてご契約者の実質的な保険料負担の軽減を図ることが相互会社としての使命であり、保険会社としていかなる時にも保険金等を確実にお支払いすることが最も重要な責務であると考え、実践しております。

# 経営の差別化の歴史

自主独立路線のもと、経営の差別化を図る

## 保険販売・商品戦略

■ 「お客さま基点」に向けた取組みを開始【2005年度】

■ 「お客さま基点」を価値観に位置付ける【2008年度】

■ 『「お客さま基点」の業務運営方針』公表【2017年度】

■ 徹底した差別化でお客さまから最も評価される会社へ

■ 業界初の保障内容を盛り込んだ医療保険『医療大臣プレミアエイト』を発売【2016年度】

■ 生保業界初となる特約組立型の主力商品『未来のとびら』を発売【2013年度】

■ 窓販チャネルを子会社(フコクしんらい生命)に分離【2008年度】

■ セコム損保との提携による生損保セット型商品の提供【2004年度】

■ 金融機関窓販への反対論が多い中、将来を見据えて参入【2002年度】

■ 自己責任原則が浸透していない中、「変額保険」は販売せずの方針

■ 医療保険の提供による第三分野への注力【1983年度】

■ 他社に先駆けて「保有純増主義」を打ち出す【1981年度】

■ 継続率改善への取り組み

■ 効率的な職域営業の取り組みを開始

■ 経営理念：  
ご契約者の利益擁護

■ 『最大たらんよりは最優たれ』

創業95周年

■ 円高局面で外国公社債を積み増し⇒収益性向上

■ 金融資本市場が混乱する中、リスク性資産を機動的に圧縮

■ 基金の証券化、ユーロ建劣後債発行等の資金調達の多様化

■ 不透明な運用環境の中、流動性を重視し、国内公社債中心の運用へシフト

■ リスク性資産(不動産・株式)への投資を抑制

■ 本社ビルの建設【1980年】

■ 業界初の平準純保険料式責任準備金の積立【1961年度決算】

■ 高度経済成長の始まりにおいて、株式投資に積極的に取り組む


資産運用戦略

財務戦略

# 経営の差別化の歴史～保険販売・商品戦略～

## 第三分野への取組み

00年～ 介護保険	03年～ 新介護保険 09年～ 要介護1 から保障	11年～ 就業不能状態 を保障	13年～ 特約組立型 総合保険 ちようどいい、わたしの保険 <b>未来のとびら</b>	万への備え	身体障がい ・介護への備え	就業不能への備え	保険料払込免除
--------------	---------------------------------------	-----------------------	--	-------	------------------	----------	---------

83年～ 医療保険	01年～ 	09年～ 日帰り入院からきっちり保障の医療保険 <b>医療大臣</b> プレミア	16年～ 8大疾病をしっかり保障 プレミアエイト <b>医療大臣</b> ∞
業界初の 医療特約	87年～ 通院 特約	92年～ 高度先進 医療特約	02年～ 移植医療特約
生損保セット型 商品の提供	04年～ セコム損保のガン保険 「自由診療保険メディコムプラス」 (09年1月～ 補償範囲を通院によるがん治療まで拡大)		

従来の保障内容をバージョンアップ  
8大生活習慣病による長期入院や  
出産など業界初の保障も拡充

## 2018年10月より発売の 第三分野商品

介護も、認知症も、ずっと

**あんしんケアダブル**

介護終身年金特約<認知症加算型>(2018)

- ▶ 介護が必要となった場合に一生涯にわたって年金をお支払い
- ▶ さらに重度の認知症に対して年金額を加算

いきいき生きるための団体医療保険

**メディカルHOPE**

- ▶ 保障のタイプや支払限度日数が自由に選択でき、幅広い福利厚生ニーズに対応可能

- 1983年より医療保険を提供するなど、第三分野に注力
- 2011年5月より就業不能保障特約を発売(11月に累計販売件数**50万件突破**)
- 10月より介護終身年金特約<認知症加算型>「あんしんケアダブル」、団体医療保険「メディカルHOPE」を発売

# 2018年度上半期報告のポイント

## 新契約高・新契約年換算保険料は増加

- ◆ 富国生命、フコクしんらい生命合算の新契約高は2社ともに増加し、前年同期比9.2%増加の7,836億円
- ◆ 2社合算の新契約年換算保険料も2社ともに増加し、前年同期比5.1%増加の84億円

## 第三分野の保有契約年換算保険料は引き続き増加

- ◆ 2社合算の保有契約年換算保険料は、富国生命、フコクしんらい生命ともに減少したものの、第三分野については前年度末比0.6%増加の1,130億円と引き続き増加

## 解約・失効は引き続き改善

- ◆ 2社合算の解約・失効は、保険金額ベースで前年同期比2.9%改善の6,472億円、年換算保険料ベースで前年同期比3.5%改善の81億円

## 基礎利益は高い水準を確保

- ◆ 2社合算の基礎利益は、前年同期比4.5%減少の471億円となったものの、開示以来最高であった前年同期の493億円に次ぐ高い水準を確保

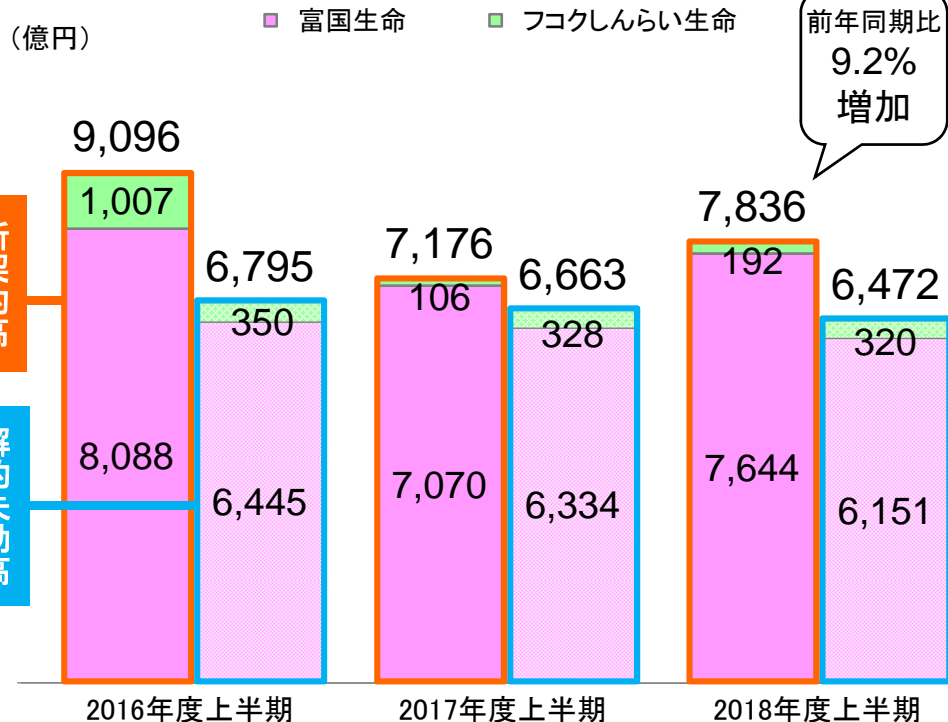
## 引き続き高い健全性を維持

- ◆ 連結ソルベンシー・マージン比率は、前年度末から3.0ポイント上昇しており、1,130.4%と引き続き高い水準を維持

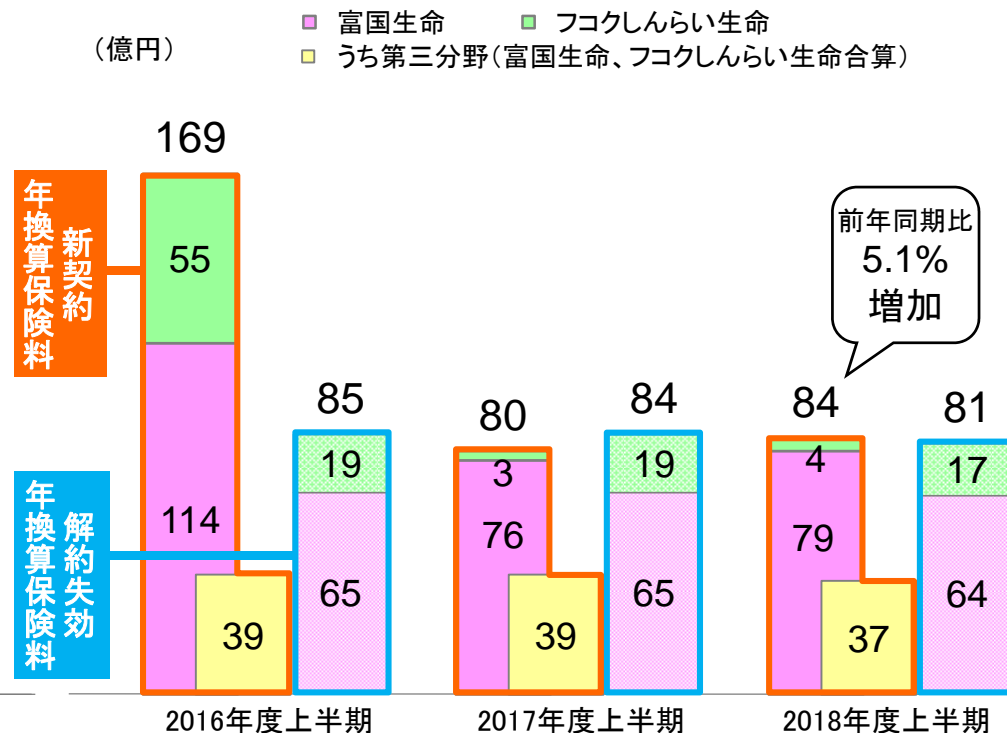
# 保険業績の状況(2社合算) ～新契約・解約失効～

※個人保険と個人年金の合計

## 新契約高・解約失効高の推移 (富国生命、フコクしんらい生命合算)



## 新契約・解約失効年換算保険料の推移 (富国生命、フコクしんらい生命合算)



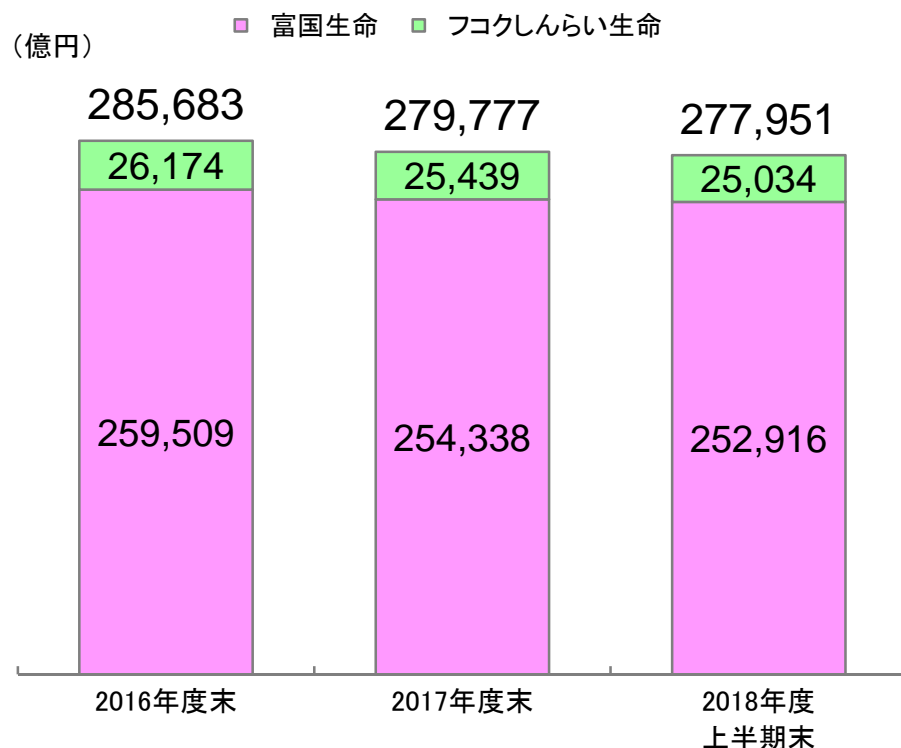
- 新契約高は富国生命、フコクしんらい生命ともに増加し、前年同期比9.2%増加
- 解約失効高は前年同期比2.9%減少し、引き続き改善

- 新契約年換算保険料も富国生命、フコクしんらい生命ともに増加し、前年同期比5.1%増加
- 解約失効年換算保険料は前年同期比3.5%減少し、引き続き改善

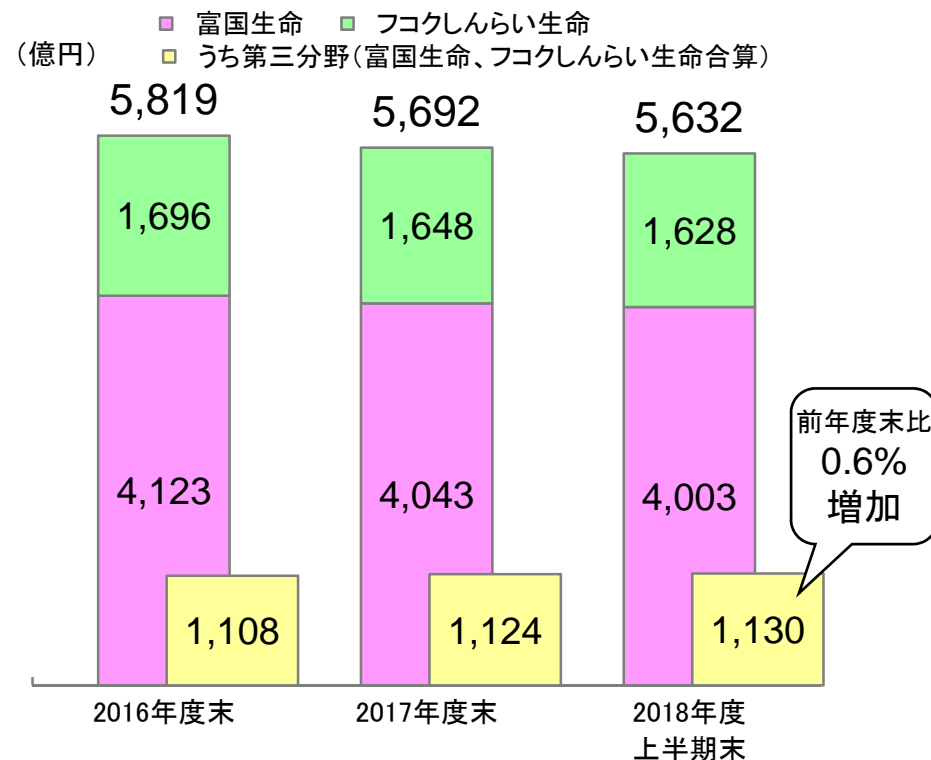
# 保険業績の状況(2社合算) ～保有契約～

※個人保険と個人年金の合計

## 保有契約高の推移 (富国生命、フコクしんらい生命合算)



## 保有契約年換算保険料の推移 (富国生命、フコクしんらい生命合算)

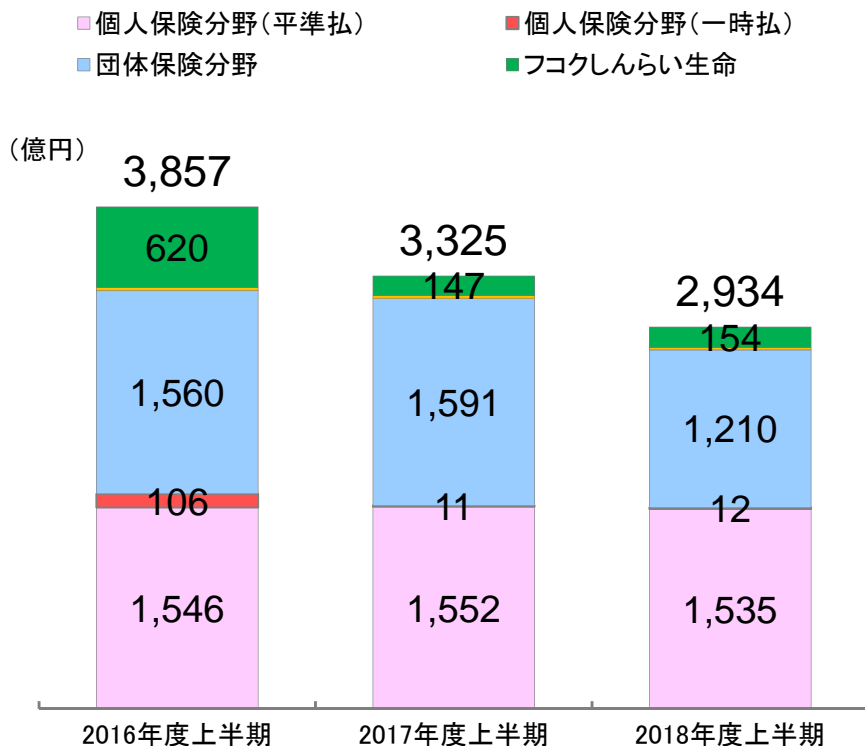


- 保有契約高は前年度末比0.7%減少したものの、減少幅は縮小
- 保有契約高の反転増加に向けて引き続き取り組む

- 保有契約年換算保険料は、富国生命、フコクしんらい生命ともに減少し、前年度末比1.1%減少
- うち、第三分野の保有契約年換算保険料は前年度末比0.6%増加の1,130億円

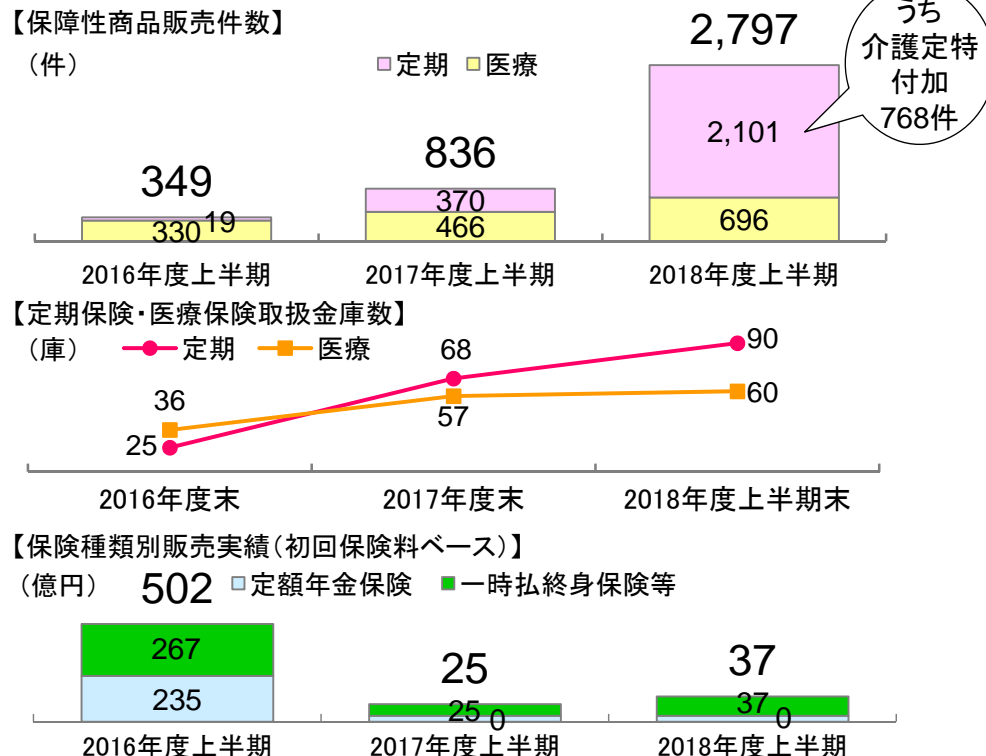
# 保険料等収入の状況(2社合算) ～保険料等収入・金融機関窓販～

## 保険料等収入の推移 (富国生命、フコクしんらい生命合算)



- 保険料等収入は富国生命の団体年金保険の減少などにより、前年同期比11.8%減少
- 富国生命の個人保険分野の平準払は安定的に推移

## 金融機関による保険販売の状況 (フコクしんらい生命)

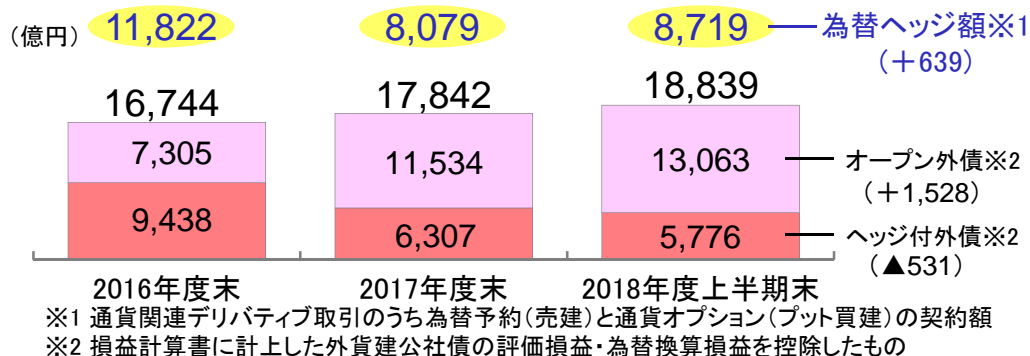


- 保障商品は、2018年4月から信用金庫業界初の認知症診断給付金付介護保障定期保険特約を発売したこともあり、大きく伸展
- 2018年10月からは、円建ての「利率更改型一時払終身保険」を発売
- 今後も保障商品の販売に注力しつつ、貯蓄性商品もバランスよく販売していく

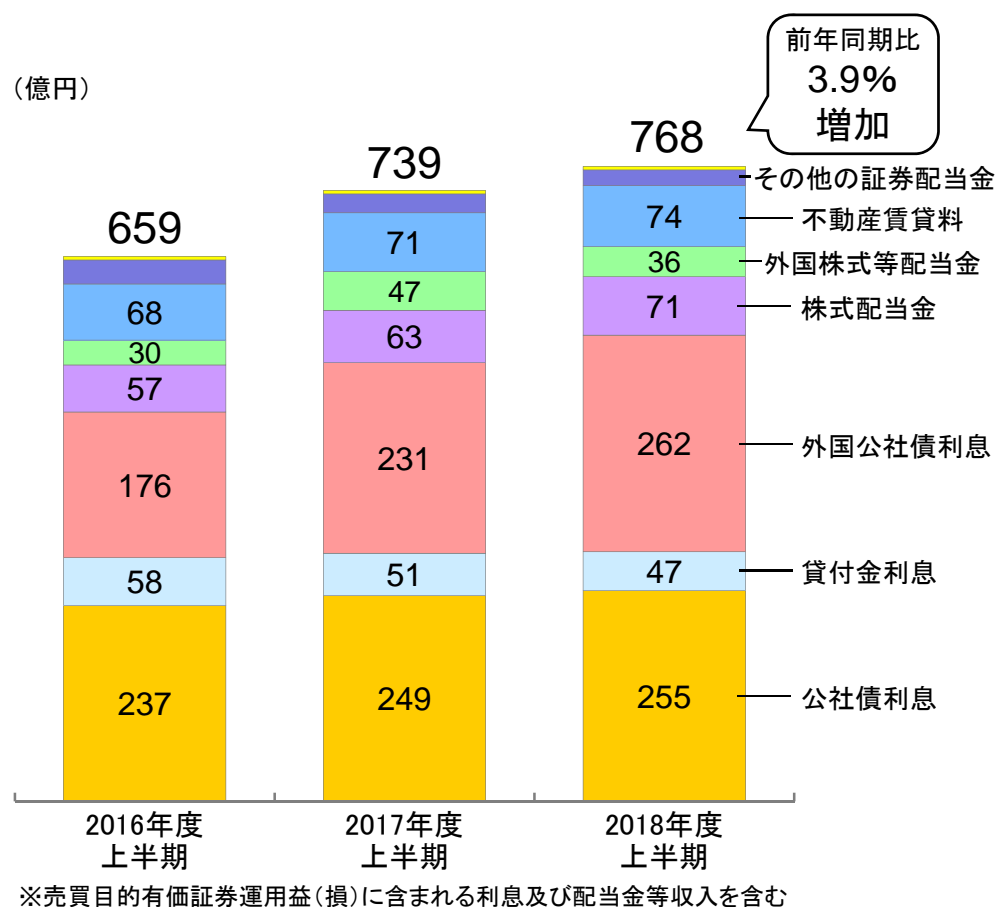


# 資産運用の状況(富国生命単体)

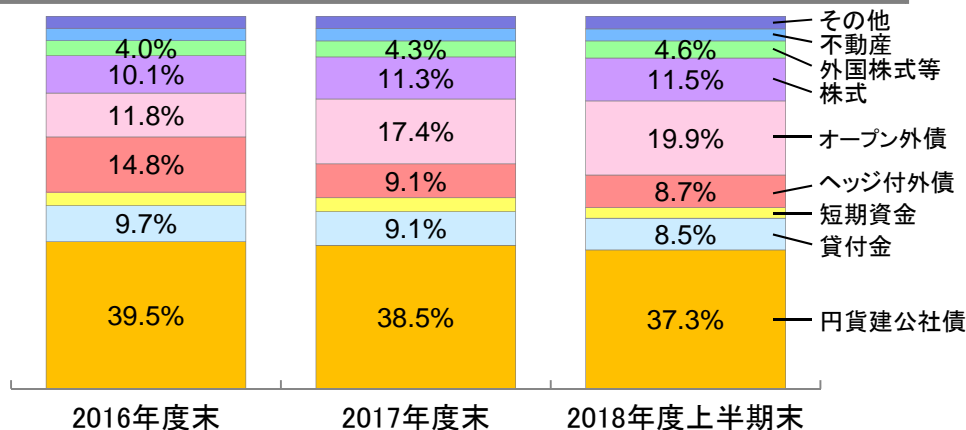
## 外貨建公社債(帳簿価額)の内訳



## 利息及び配当金等収入※の状況



## 一般勘定資産の資産構成比(BSベース)

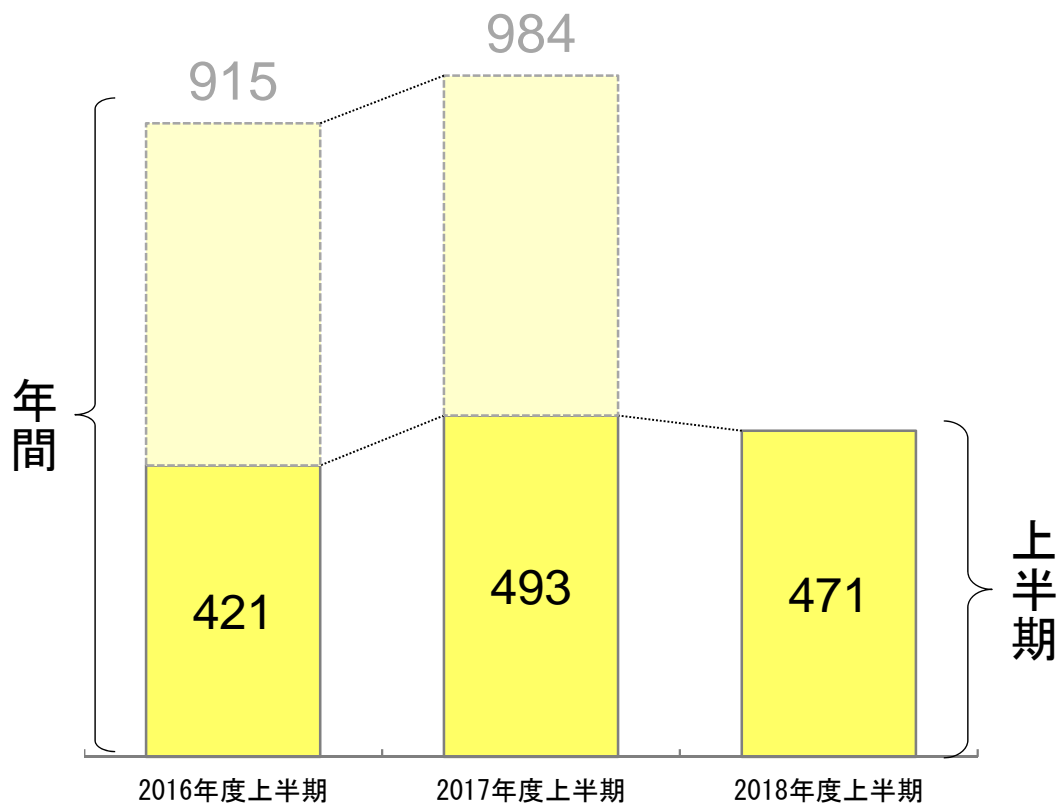


- 適切なリスクテイクにより収益性向上を図るべく以下の取組みに引き続き注力
  - ✓ 為替市場の動向を睨みながら、相対的に金利水準の高い米ドル建てを中心にオープン外債を積増し
  - ✓ 為替ヘッジコストの上昇を受け収益性が低下したヘッジ付外債の残高を圧縮
  - ✓ 通貨オプションの活用などにより、為替リスクを適切にコントロール
- 利息及び配当金等収入は、前年同期比3.9%増加の768億円と、上半期として過去最高

# 基礎利益の状況(2社合算)

## 基礎利益の推移

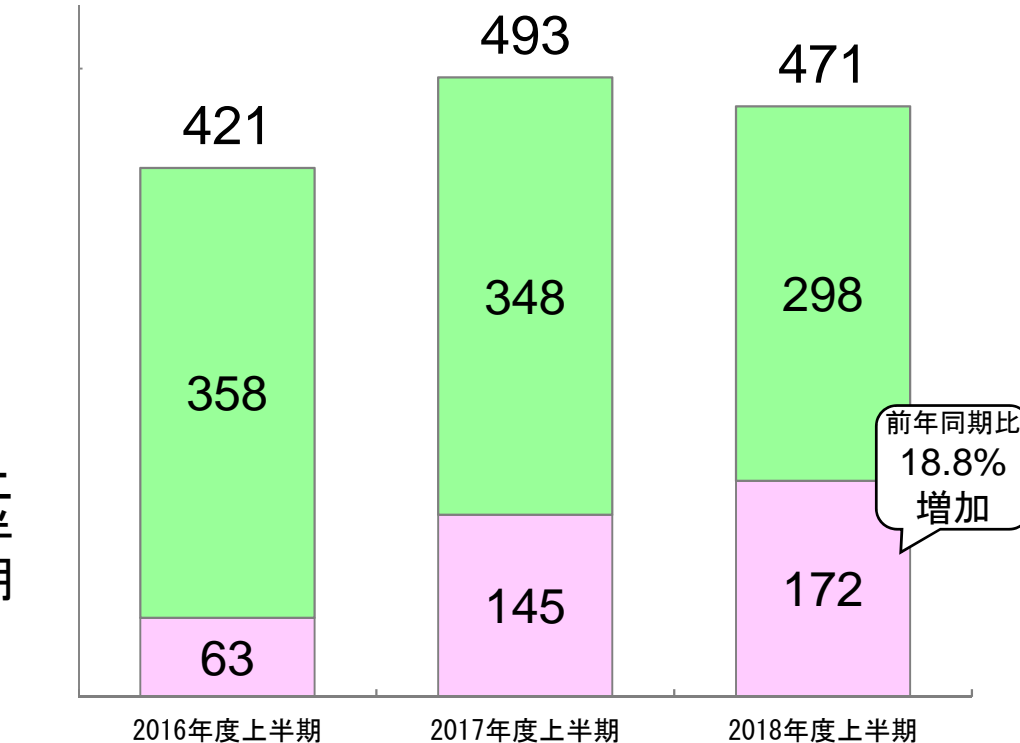
(億円)



## 基礎利益の内訳

■ 保険関係損益 ■ 利差

(億円)

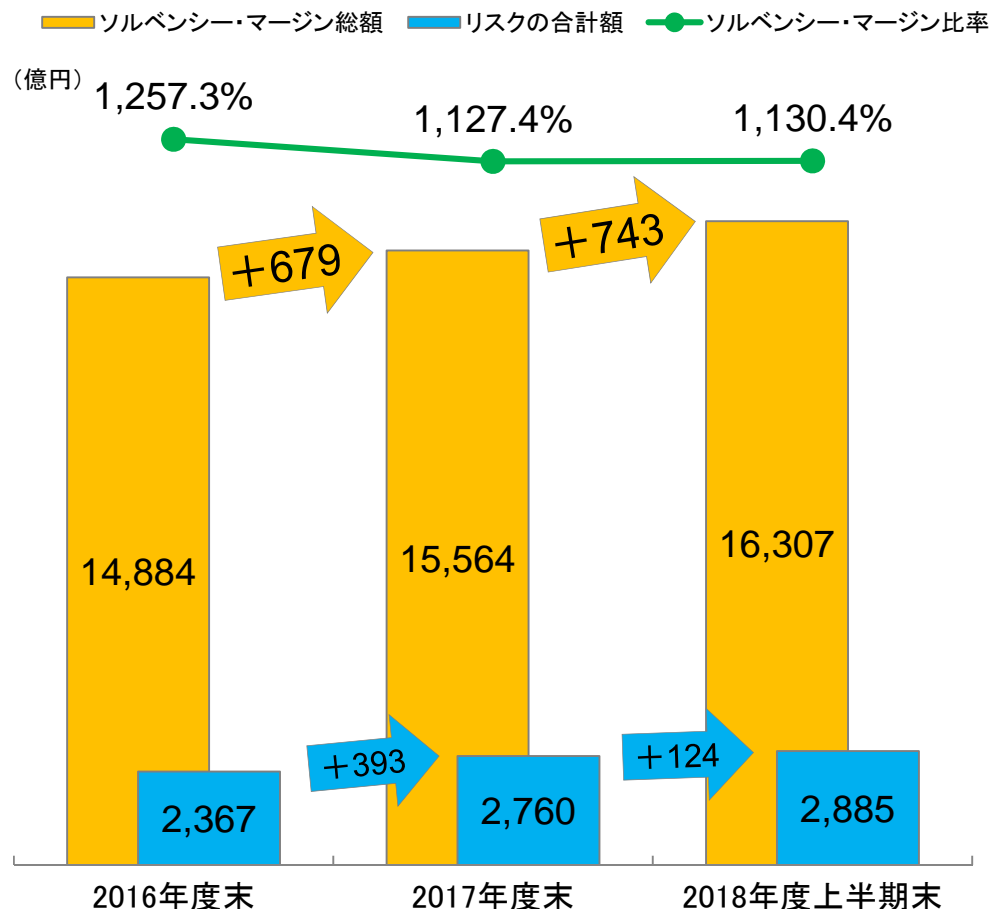


- 基礎利益は前年同期比4.5%減少の471億円となったものの、上半期においては開示以来最高であった前年同期に次ぐ高い水準を確保

- 大型システム開発投資の減価償却により、保険関係損益(危険差+費差)は減少したものの、利息及び配当金等収入の増加により利差益が増加

# 健全性の状況

## ソルベンシー・マージン比率の推移(連結)



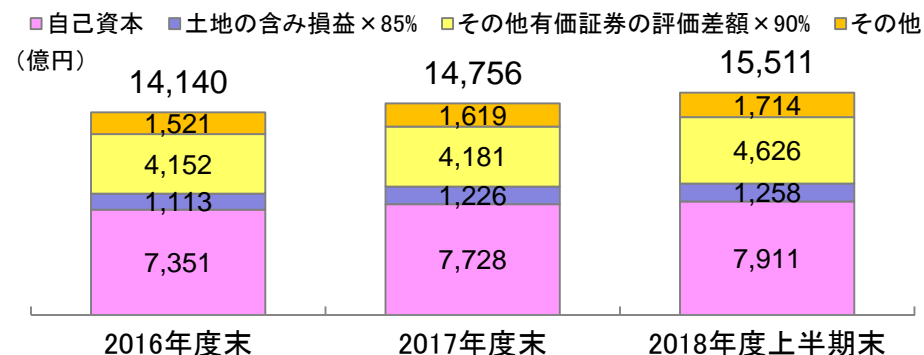
- 連結ソルベンシー・マージン比率は、前年度末から3.0ポイント上昇し、1,130.4%と引き続き高い水準を維持

## ソルベンシー・マージン比率の推移(単体)

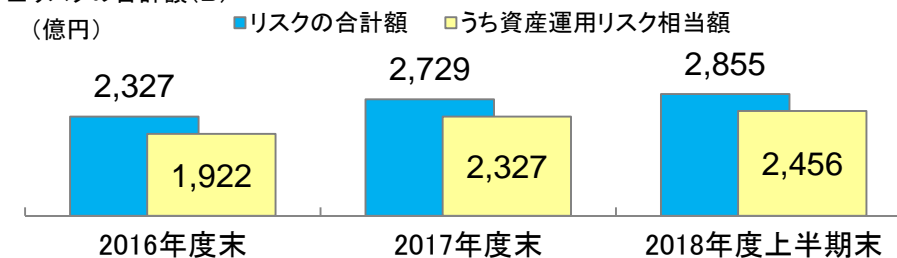
### ■ソルベンシー・マージン比率

項目	2016年度末	2017年度末	2018年度上半期末
ソルベンシー・マージン比率	1,214.8%	1,081.2%	1,086.2%
計算式	$\frac{(A)}{(1/2) \times (B)} \times 100$		

### ■ソルベンシー・マージン総額(A)



### ■リスクの合計額(B)

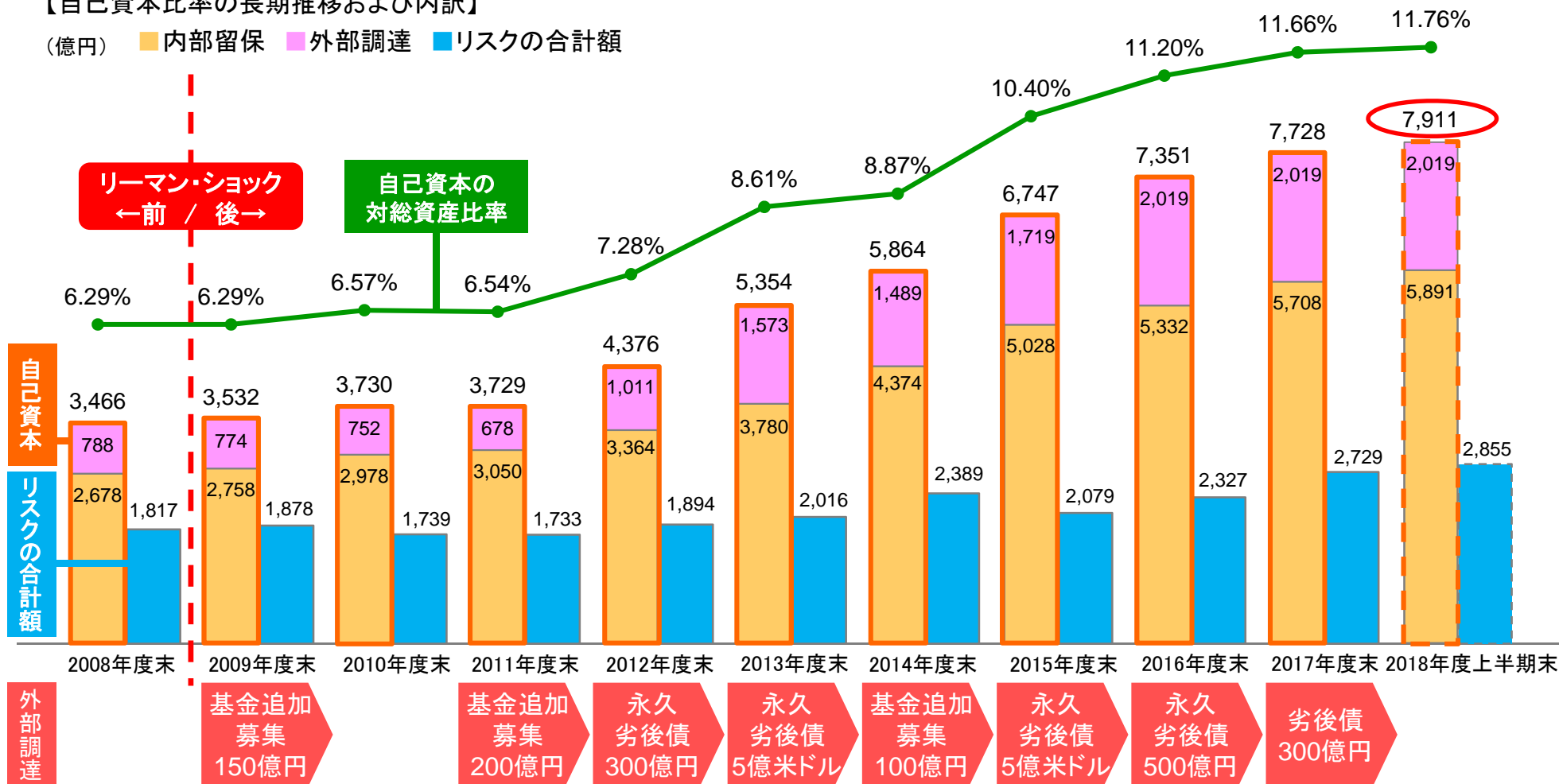


- リスクの合計額はオープン外債の積増しなどにより増加したものの、内部留保の積増しや含み益の増加などでマージン総額は増加したことにより、前年度末から5.0ポイント上昇の1,086.2%

# オンバランスの自己資本強化と継続的なリスク・コントロール(富国生命単体)

【自己資本比率の長期推移および内訳】

(億円) ■ 内部留保 ■ 外部調達 ■ リスクの合計額



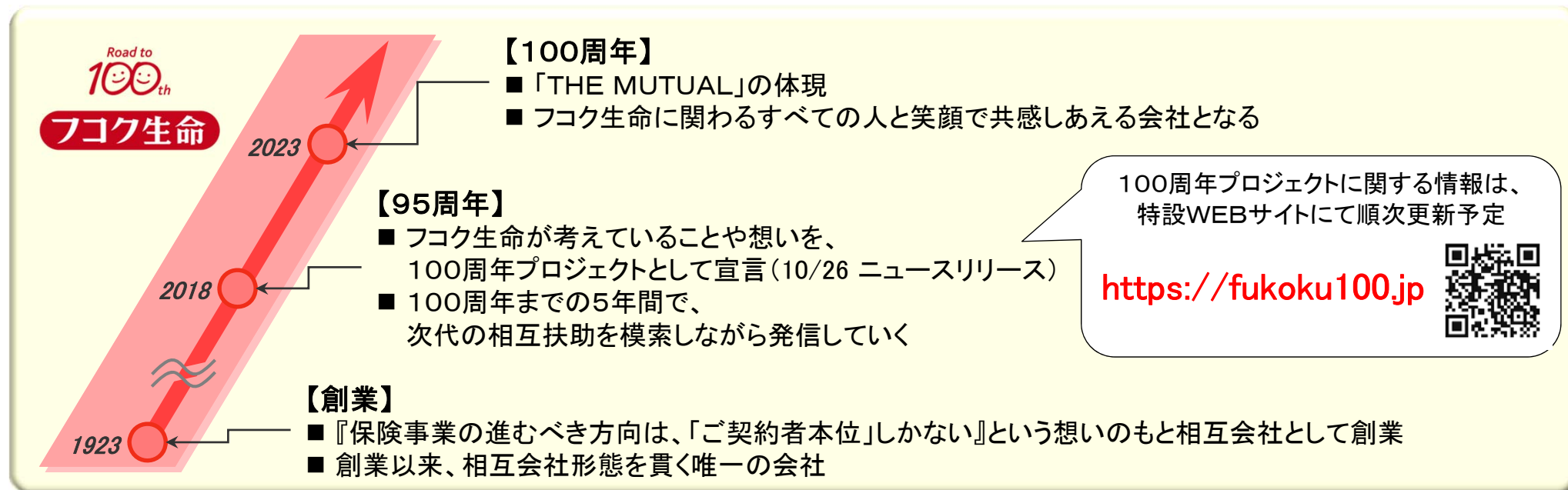
- 経常益による内部留保の積上げを第一義とし、適時、外部調達を行うことで自己資本を強化
- 2018年度上半期末においては内部留保を183億円積増し
- 統合的リスク管理(ERM)を着実に推進

# THE MUTUAL

次代の“相互扶助”を考える

「THE MUTUAL」(ザ・ミューチュアル)とは  
次の100年に向け進化させた次代の“相互扶助”のこと  
そして、フコク生命に関わるすべての人のつながりを深め支えあい  
真の“相互扶助”を体現する組織を目指すフコク生命の決意

【創業から100周年に向けて】



# (ご参考) 主要業績①

## 保有契約の状況(富国生命、フコクしんらい生命合算)

### 個人保険(個人保険+個人年金保険)

保有契約高 (単位: 億円、%)

	2017年度 上半期末		2018年度 上半期末		2017年度末	
	前年度末比		前年度末比		前年度末比	
個人保険	240,911	99.2	237,758	99.6	238,647	98.3
個人年金保険	41,952	98.0	40,193	97.7	41,130	96.1
保有契約高	282,863	99.0	277,951	99.3	279,777	97.9

新契約高・解約失効高 (単位: 億円、%)

	2017年度 上半期		2018年度 上半期		2017年度	
	前年同期比		前年同期比		前年度比	
個人保険	7,081	85.6	7,728	109.1	14,052	85.8
個人年金保険	95	11.6	107	113.2	223	10.4
新契約高	7,176	78.9	7,836	109.2	14,276	77.1
解約失効高	6,663	98.1	6,472	97.1	13,341	96.7
(解約失効率)	(2.33%)	△ 0.03 ポイント	(2.31%)	△ 0.02 ポイント	(4.67%)	△ 0.12 ポイント

### 保有契約年換算保険料 (単位: 億円、%)

	2017年度 上半期末		2018年度 上半期末		2017年度末	
	前年度末比		前年度末比		前年度末比	
個人保険	3,170	99.4	3,139	99.6	3,151	98.8
個人年金保険	2,584	98.3	2,492	98.1	2,540	96.7
保有契約年換算保険料合計	5,755	98.9	5,632	98.9	5,692	97.8
うち医療保障・ 生前給付保障等	1,116	100.8	1,130	100.6	1,124	101.5

### 新契約年換算保険料・解約失効年換算保険料 (単位: 億円、%)

	2017年度 上半期		2018年度 上半期		2017年度	
	前年同期比		前年同期比		前年度比	
個人保険	77	61.6	81	104.9	156	64.9
個人年金保険	2	6.5	3	110.3	6	7.5
新契約年換算保険料合計	80	47.2	84	105.1	163	49.4
うち医療保障・ 生前給付保障等	39	99.5	37	93.9	78	99.8
解約失効	84	99.0	81	96.5	167	99.5
(解約失効率)	(1.46%)	△ 0.03 ポイント	(1.44%)	△ 0.02 ポイント	(2.88%)	△ 0.04 ポイント

### 団体保険(団体保険、団体年金保険)

保有契約高 (単位: 億円、%)

	2017年度 上半期末		2018年度 上半期末		2017年度末	
	前年度末比		前年度末比		前年度末比	
団体保険	171,849	98.5	175,253	100.9	173,772	99.6
団体年金保険	21,726	100.7	21,984	100.8	21,803	101.1

- ・新契約高(個人保険+個人年金保険)は前年同期比9.2%増加、新契約年換算保険料(個人保険+個人年金保険)は前年同期比5.1%増加
- ・解約失効率は保険金額ベースで前年同期比0.02ポイント改善、保険料ベースで前年同期比0.02ポイント改善
- ・保有契約年換算保険料(個人保険+個人年金保険)は前年度末比1.1%減少、うち医療保障・生前給付保障等は前年度末比0.6%増加

## (ご参考) 主要業績②

### 保有契約の状況(富国生命単体)

#### 個人保険(個人保険+個人年金保険)

保有契約高 (単位: 億円、%)

	2017年度 上半期末		2018年度 上半期末		2017年度末	
	前年度末比		前年度末比		前年度末比	
個人保険	229,801	99.2	226,826	99.6	227,653	98.3
個人年金保険	27,276	97.8	26,090	97.8	26,684	95.6
保有契約高	257,077	99.1	252,916	99.4	254,338	98.0

新契約高・解約失効高 (単位: 億円、%)

	2017年度 上半期		2018年度 上半期		2017年度	
	前年同期比		前年同期比		前年度比	
個人保険	6,979	90.9	7,539	108.0	13,814	88.5
個人年金保険	90	22.1	104	115.1	211	13.3
新契約高	7,070	87.4	7,644	108.1	14,025	81.6
解約失効高	6,334	98.3	6,151	97.1	12,697	96.7
(解約失効率)	(2.44%)	△ 0.02 ポイント	(2.42%)	△ 0.02 ポイント	(4.89%)	△ 0.12 ポイント

#### 保有契約年換算保険料 (単位: 億円、%)

	2017年度 上半期末		2018年度 上半期末		2017年度末	
	前年度末比		前年度末比		前年度末比	
個人保険	2,763	99.4	2,736	99.6	2,747	98.8
個人年金保険	1,320	98.3	1,266	97.7	1,296	96.5
保有契約年換算保険料合計	4,083	99.0	4,003	99.0	4,043	98.1
うち医療保障・ 生前給付保障等	1,099	100.8	1,113	100.6	1,107	101.4

#### 新契約年換算保険料・解約失効年換算保険料 (単位: 億円、%)

	2017年度 上半期		2018年度 上半期		2017年度	
	前年同期比		前年同期比		前年度比	
個人保険	73	73.3	76	103.2	148	69.9
個人年金保険	2	20.0	3	112.4	6	12.2
新契約年換算保険料合計	76	67.0	79	103.5	154	58.8
うち医療保障・ 生前給付保障等	39	99.1	36	93.3	77	99.2
解約失効	65	99.6	64	97.9	129	98.8
(解約失効率)	(1.59%)	△ 0.02 ポイント	(1.58%)	△ 0.01 ポイント	(3.15%)	△ 0.08 ポイント

#### 団体保険(団体保険、団体年金保険)

保有契約高 (単位: 億円、%)

	2017年度 上半期末		2018年度 上半期末		2017年度末	
	前年度末比		前年度末比		前年度末比	
団体保険	168,876	98.5	172,154	100.8	170,732	99.5
団体年金保険	21,726	100.7	21,984	100.8	21,803	101.1

- ・新契約高(個人保険+個人年金保険)は前年同期比8.1%増加、新契約年換算保険料(個人保険+個人年金保険)は前年同期比3.5%増加
- ・解約失効率は保険金額ベースで前年同期比0.02ポイント改善、保険料ベースで前年同期比0.01ポイント改善
- ・保有契約年換算保険料(個人保険+個人年金保険)は前年度末比1.0%減少、うち医療保障・生前給付保障等は前年度末比0.6%増加

# (ご参考) 主要業績③

## 収支の状況

### 保険関係収支

(富国生命、フコクしんらい生命合算) (単位: 億円、%)

	2017年度 上半期		2018年度 上半期	
		前年同期比		前年同期比
保険料等収入	3,325	86.2	2,934	88.2
うち個人保険分野	1,705	75.2	1,698	99.6
うち団体保険分野	1,595	102.0	1,214	76.1

(富国生命単体) (単位: 億円、%)

	2017年度 上半期		2018年度 上半期	
		前年同期比		前年同期比
保険料等収入	3,178	98.2	2,779	87.5
うち個人保険分野	1,563	94.6	1,547	99.0
うち団体保険分野	1,591	102.0	1,210	76.1
保険金等支払金	2,803	106.2	2,377	84.8

(注) 保険料等収入の個人保険分野は個人保険と個人年金保険、団体保険分野は団体保険と団体年金保険の合計額を、それぞれ記載しています。

### 【金融機関による保険販売の状況】

(フコクしんらい生命実績) (単位: 件、億円、%)

	2017年度 上半期		2018年度 上半期	
		前年同期比		前年同期比
新契約件数	1,513	8.0	3,711	245.3
保険料	25	5.0	37	148.4

※ 平準払契約については初回保険料の単純合計

### 資産運用関係収支

(富国生命単体) (単位: 億円、%)

	2017年度 上半期		2018年度 上半期	
		前年同期比		前年同期比
一般勘定				
資産運用収益	932	94.1	956	102.6
うち利息及び 配当金等収入	710	113.0	745	104.9
資産運用費用	259	60.8	266	102.7
資産運用関係収支	672	119.3	689	102.6
特別勘定資産運用損益	49	-	42	85.9

### 基礎利益

(富国生命単体) (単位: 億円)

	2017年度 上半期	2018年度 上半期
基礎利益 A	482	471
危険差 + 費差	351	312
利差	130	158
キャピタル損益 B	1	△ 3
臨時損益 C	△ 0	△ 42
経常利益 A+B+C	483	425

(富国生命、フコクしんらい生命合算) (単位: 億円)

	2017年度 上半期	2018年度 上半期
基礎利益	493	471



# (ご参考) 主要業績④

## 資産・健全性の状況

### 資産の構成

(富国生命単体) (単位: 億円、%)

区 分	2017年度 上半期末		2017年度末		2018年度 上半期末	
	金額	占率	金額	占率	金額	占率
総 資 産	67,355		66,266		67,285	
うち一般勘定資産	66,554	100.0	65,442	100.0	66,427	100.0
うち公社債	28,728	43.2	28,186	43.1	27,914	42.0
うち株式	7,277	10.9	7,408	11.3	7,615	11.5
うち外国証券	17,798	26.7	17,138	26.2	18,923	28.5
うち貸付金	5,958	9.0	5,937	9.1	5,670	8.5

### 含み損益の状況(一般勘定)

(富国生命単体) (単位: 億円)

区 分	2017年度 上半期末	2017年度末	2018年度 上半期末
	差損益	差損益	差損益
有 価 証 券 合 計	8,410	7,624	7,752
うち公社債	3,665	3,560	3,120
うち株式	3,429	3,664	3,841
うち外国証券	1,126	211	569
不動産(土地・借地権)	1,163	1,286	1,290
合 計	9,573	8,911	9,043

### 健全性を示す指標

(富国生命単体) (単位: 億円)

項 目	2017年度 上半期末	2017年度末	2018年度 上半期末
ソルベンシー・マージン総額 (A)	15,540	14,756	15,511
リスクの合計額 (B)	2,591	2,729	2,855
ソルベンシー・マージン比率 $\frac{(A)}{(1/2) \times (B)} \times 100$	1,199.2%	1,081.2%	1,086.2%

(単位: 億円)

	2017年度 上半期末	2017年度末	2018年度 上半期末
実質純資産額	17,142	16,903	17,105
対一般勘定資産比率	25.8%	25.8%	25.8%

(連結ベース) (単位: 億円)

項 目	2017年度 上半期末	2017年度末	2018年度 上半期末
ソルベンシー・マージン総額 (A)	16,302	15,564	16,307
リスクの合計額 (B)	2,625	2,760	2,885
ソルベンシー・マージン比率 $\frac{(A)}{(1/2) \times (B)} \times 100$	1,241.8%	1,127.4%	1,130.4%

(単位: 億円)

	2017年度 上半期末	2017年度末	2018年度 上半期末
実質純資産額	19,231	19,034	18,983